

トリブバン大学医学部との部局間学術交流協定を締結しました (2016/11/7-8)

テーマ： 災害医療に関する相互学術交流協定
会場：トリブバン大学（カトマンズ、ネパール）

2016年11月16-19日（水-土）に江川新一教授がネパールを訪問し、今村文彦所長の代理として災害科学国際研究所とトリブバン大学医学部が部局間学術交流協定(MOU)を締結しました。2015年4月25日に発生したゴルカ地震に対する緊急災害調査をきっかけに、2016年2月9日には災害保健医療の教育に関する国際ワークショップ、2016年4月には世界銀行と災害科学国際研究所によるネパール地震に関するシンポジウムなどを通じて、機運が高まりMOU締結に至ったものです。

トリブバン大学病院は別名 Teaching Hospital と呼ばれ、文字通りネパールの医療従事者の教育を担っている大学です。60名の定員に10000名もが受験する狭き門ですが、合格者は無料で医学教育を受けることができ、卒業後に一定期間遠隔地医療に従事することが義務付けられています。後述するHOPEに基づいた病院災害対応計画が徹底されており、2015年のゴルカ地震の際には、病院は耐震構造によって倒壊することなく機能し、入院患者をすぐに病院前広場に移動させて安全を確保したうえで、緑、黄色、赤、黒のトリアージエリアを設置して来院する多数傷病者に対応したそうです。

MOU締結によって、ネパールで最も古く大きな大学であるトリブバン大学医学部と災害科学国際研究所との教官の交流、学生に対する教育、共同研究を推進することができます。とくに災害におけるメンタルヘルスについて、また病院の危機管理の教育カリキュラムHOPEコースなどについての交流が見込まれます。HOPEコースは3泊4日で、病院長、事務長、救急医、看護師、技師などが標準化された26の講義と6つの演習を通じて病院の防災に関する知識、考え方、対応について学ぶことができるコースです。インストラクターは受講経験者のなかから、インストラクターコースをさらに受講し、アシスタントインストラクターとして教育の実践をつみ、評価されてのちに正式なインストラクターになるという教育の質を担保したカリキュラムです。

江川新一教授はさらに、ネパール政府保健省、WHOネパール事務所、JICAネパール事務所、ネパール地震技術学会(NSET)、国際NGO Association of Medical Doctors of Asia (AMDA)のメンバーとも会談し、災害科学国際研究所がUNDPとの合意のもとに推進している災害統計グローバルセンターについて説明し、災害統計と背景因子としての保健医療統計を統合することの意義と可能性について理解・協力を得ることができました。ネパールの災害統計はNSETがDesInventarを用いてまとめたデータがWeb上で利用可能です。また、保健医療の統計については保健省が毎年作成しているデータが公開されており、この2つのデータベースを利用した共同研究について推進していくことができます。

AMDAネパールの主要なメンバーとも会合し、AMDAネパールが行っている3つの主要な事業として国内に3か所あるAMDAネパール独自の病院による地域の健康水準の底上げ、医療従事者の教育、災害対応を行っていることを知ることができました。わが国では日本赤十字社が病院を所有して地域医療や災害対応を行っている状況とよく似ています。ネパールの赤十字社は病院をもっておらず、血液バンク事業が主たる業務とのことでした。ネパールAMDAの会員は24名しかおらず、実際に災害対応や遠隔地医療などに貢献した実績を持ち、志の高さをもとめられるとのことでした。TUTHの教官でAMDAネパールの会員となっている方々とのネットワークを形成することができました。

カトマンズ市内は地震からの復興も進んでおり、数多くの建設がなされている様子でした。電気の供給量が増加したらしく、停電がない日が数日間つづく状態がようやく達成されたとのことでした。また、地震で大きな被害を受けたカトマンズ最大の公立病院であるBir Hospitalでは半壊した病棟を取り壊して更地にしたものの、地震によって地下水が枯渇し、新たに300メートル

の井戸を掘るか、遠隔地水源からのトンネル完成を待たないと新病棟建築ができないとのことでした。災害からの復興は、社会全体のさまざまな問題解決、水準向上が求められていることがよくわかります。今後もネパールとの間で共同研究や教育をすすめ、実践的防災学の樹立を推進していきます。



左からトリブバン大学医学部 Acting Dean の Bimal Kumar Shinha 教授、江川、精神科で前 AMDA Nepal 理事長の Saroj Ojha 教授による MOU 締結



多くの患者さんで混雑するトリブバン大学病院 TUTH



地震で大きな被害を受けた病棟が取り壊されて更地になった Bir Hospital の敷地。水道の確保が課題となっている。



HOPE コースコーディネーターの Badya 教授

文責：江川新一（災害医学研究部門）